

総合治水対策を進める上での課題と対応の方向性

計画推進を阻む大きな課題は見当たらず、着実に計画目標が達成されているため、現在の取り組みを継続する。

計画改定においては、気候変動の影響を踏まえたあらたな対策方針等を盛り込むとともに、最新の社会情勢等を踏まえる。

河川下水道対策

河川下水道対策は、県の「河川対策アクションプログラム」や神戸市の事業計画に基づいて着実に進めている。
引き続き河川・下水道の整備を計画的に進める。

流域対策

六甲山地における土砂・流木の流出抑制対策は、国や県、神戸市の事業計画に基づいて着実に進めている。
雨水貯留浸透施設の整備は、施設管理者との協議が整った箇所や、施設の新規整備や既存施設改修に合わせて着実に進めている。今後、県営住宅の建て替え計画が多数計画されており、併せて整備する駐車場貯留施設による効果が期待できる

引き続き土砂・流木の流出抑制対策を計画的に進めるとともに、貯留浸透施設による取り組み効果の見える化などで施設管理者の理解と協力が得られるように努める。

減災対策

洪水浸水想定区域の指定、浸水想定区域図の作成などは目標を達成しており、水位周知河川での避難判断水位や氾濫危険水位等の見直しも行った。

防災DXも活用し、あらゆる世代や対象に対し防災意識を啓発する取り組みも広がっている。

従来の避難啓発活動や防災情報の発信に加え、DXなどを活用したあらたな取り組みも併せて防災啓発活動を進める。